

瀬戸市観光推進指針 2026-2030 【概要版】

■基本理念

『もっと知りたい、また行きたい』誰もが心地よいまち瀬戸
—まるっとミュージアムから次のステージへ—

■策定の背景と目的

瀬戸市（以下、「本市」という。）は「せと・まるっとミュージアム観光推進アクションプラン2021-2025」（以下、「アクションプラン」という。）を策定し、観光振興に取り組んできました。コロナ禍で観光需要が落ち込んだものの、現在は回復傾向にあります。しかし、インバウンド受入や飲食サービスの充実など、新たな観光ニーズに対応する必要があるため、本指針を「次のステップに進むための5年」と位置づけ、「アクションプラン」を踏襲しつつ、これまでの成果を振り返り、官民が協力して持続的かつ戦略的に観光を推進するための羅針盤とするものです。

■指針の位置づけと期間

本指針は、本市の観光推進における基本的な考え方を示し、本市の観光を総合的に向上させるための指針とします。



■観光の定義と観光振興の意義

観光の定義

指針における「観光」の定義は、自然、歴史、文化、食といった地域固有の魅力を深く体験できる機会を提供し、観光客と地域住民の交流を促進しながら、地域の活性化と持続的な発展につなげる総合的な営みとし、市外からの宿泊旅行や日帰りでの訪問を指します。

また、本指針が目指す「観光」は、本市ならではの観光、他には真似できない観光を目指します。

観光振興の意義

観光振興は人を呼び込むだけでなく、文化的、社会的、経済的効果をもたらす、地域社会や経済の持続的な活性化に寄与します。これにより、相乗効果が生まれ、地域全体の活性化が期待されます。

■観光の取組課題

これからの本市の観光を考えるにあたり、現状とのギャップや瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会（以下、「観光協会」という。）会員へのアンケート調査、観光関係者へのヒアリング等により、次の4つの取組課題を設定しました。

1 地域資源の観光への活用

観光客の関心を引きつける形で資源を発信できておらず、本市の魅力を効果的に伝えできていません。このため、国内外からの観光客の興味を引き出し、鮮明なイメージとして発信する取り組みが求められます。

2 多様化・深化する観光ニーズへの対応

観光客のニーズが多様化している中、市内各地域の観光振興には差があり、課題も様々です。本市を訪れる人々の目的は明確であり、現行の観光施策にズレが生じないように見直しが必要です。

3 官民連携の推進及び取組の継続

観光事業を安定的に継続するためには、長期的な財政見直しを立て、地域資源の価値を守りつつ、持続可能な観光の仕組みを構築することが不可欠です。

4 持続可能な観光への取組

本市は今後5年間、重要な節目を迎え、観光振興の絶好の機会です。地域全体が連携し、継続的に観光振興に取り組むことが不可欠です。また、レガシーを活かし、文化資源を再発見することが求められます。

■コンセプト・基本方針

■コンセプト

『まちを知りたい・語りたい』 「物語」に触れる旅へ

- 新たな観光資源の掘り起こし
- 歴史、文化、産業などの魅力的な資源の磨き上げ
- 瀬戸ならではの地域資源を組み合わせ、「物語」として国内外に発信

『こだわりを知りたい・伝えたい』 「本物」を体感する旅へ

- 「本物」を五感で感じる体験の提供
- 「魅力的」で「特別」な体験の提供
- 瀬戸の伝統や職人の技、文化資源の魅力を広く伝える

『人に会いたい・交流したい』 「交流」し共感する旅へ

- 「推し」の作家やツクリテとの出会いや交流の促進
- 自分だけのオリジナルな瀬戸の旅の創出
- 「この人に会うために瀬戸を訪れたい」と思えるような観光を強化

『その日、その時のまちの顔に出会いたい』 思いがけない「発見」に出会う旅へ

- 思いがけない出会いを生み出す
- 観光客が小さな発見や喜びを感じる旅の提供
- ホスピタリティを発揮し、その一瞬を大切に観光客の心に寄り添う柔軟な対応

■基本方針

1 瀬戸の魅力・価値を “観光につなげる” (瀬戸らしさの追求)

瀬戸の魅力である地域資源に光を当て、歴史や文化とつなげて語ることで、来訪者が体験や商品に付加価値を感じられるよう努める。

取組の考え方・方向性

- ①「本物」を体感する「物語」づくり
- ②多様な市内滞在（体験）プログラムの造成
- ③アートとものづくり文化を活かした観光推進
- ④テーマ性をもった様々な観光資源の結びつけ

2 瀬戸の魅力・価値を “観光客につなげる” (きめ細かな情報発信)

瀬戸の魅力や価値について、情報をきめ細かく発信し、観光誘客の強化、満足度向上を目指す。市民も自ら発信したくなるまちを目指す。

取組の考え方・方向性

- ①観光関連情報の一元化
- ②地域の特性に合わせた受入体制の構築と連携の推進
- ③データを活用したマーケティング環境の整備
- ④商品・ターゲットに合わせたプロモーション戦略

3 瀬戸の魅力・価値が “人と人をつなげる” (つながりを深め、出会いが重なるまちへ)

瀬戸の魅力や情報を観光関係者と地域が共有し、多くの魅力や有益な情報を発信することで、市内の回遊や再訪の更なる促進を図る。

取組の考え方・方向性

- ①観光に携わる関係者間の情報共有と地域連携の推進
- ②再訪につながる環境づくり
- ③宿泊施設や飲食店と連携した回遊促進
- ④広域連携を軸としたインバウンド向け商品造成

4 瀬戸の魅力・価値を “未来につなげる” (価値を共有し次の100年へ)

持続可能な観光の仕組みを構築し、瀬戸の魅力と価値を未来へと受け継ぐ。

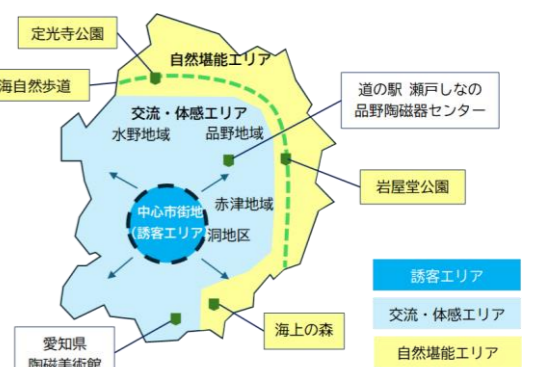
取組の考え方・方向性

- ①価値やサービスに見合った価格設定への見直し
- ②市制施行100周年に向け国際芸術祭のレガシーを活かした価値創造
- ③ニーズ変化に対応するための人材育成と外部知見の活用
- ④イベント企画運営に係る民間・地域の参画促進
- ⑤観光協会組織体制の検討

■エリア戦略

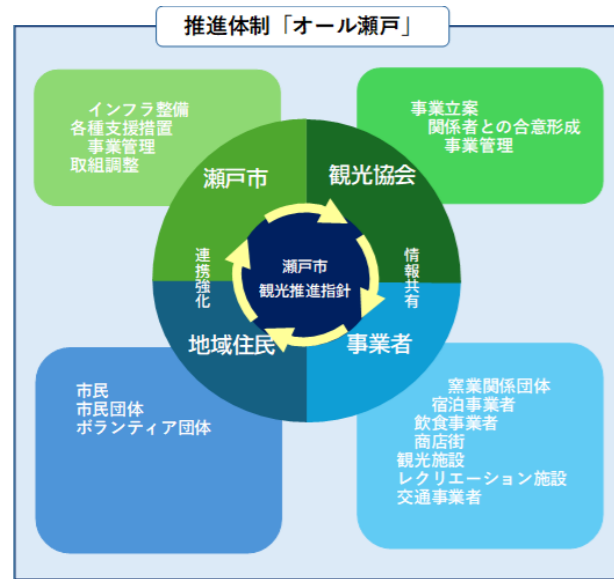
- 「誘客エリア」
中心市街地（尾張瀬戸駅周辺）
- 「交流・体感エリア」
洞、赤津、品野、水野など
- 「自然堪能エリア」
定光寺公園、岩屋堂公園
東海自然歩道、海上の森など

各エリアの特性を活かして、地域全体の持続的な発展を目指します。



■推進体制

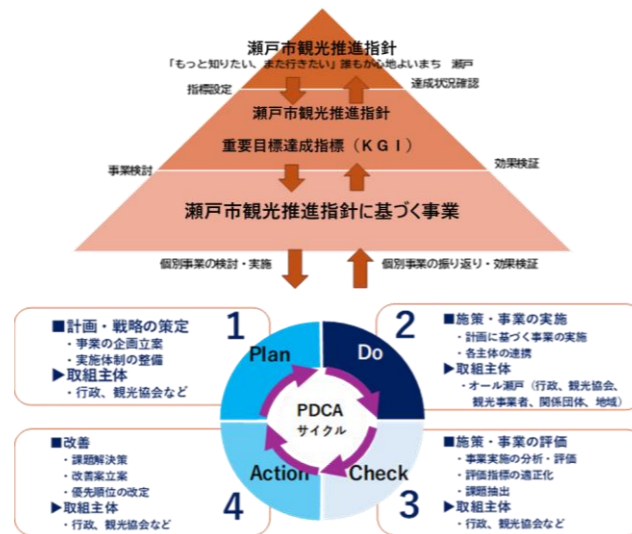
多様な主体が本指針を共有し、連携・協働を図り、互いに「連携強化」や「情報共有」をしながら、指針に基づく取組や事業の実効性を高める官民一体となった推進体制を目指します。



■進行管理

本指針では、重要目標達成指標（KGI：Key Goal Indicator）（以下、「KGI」という。）を設定し、その達成状況を以て評価します。

KGIの達成状況を確認し、PDCAサイクルに基づいて各事業を評価・改善することで、観光推進の実効性を高めることを目指します。具体的には、計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）のプロセスを通じて、指針との整合性を保ちながら進めます。



瀬戸市観光推進指針 2026-2030

『もっと知りたい、また行きたい』誰もが心地よいまち瀬戸
—— まるっとミュージアムから次のステージへ ——

[概要版]

■数値目標（KGI）

本指針は基本理念で「誰もが心地よいまち」を目指しているため、KGIは「量」だけでなく「質」を重視し、持続可能な観光の観点から「観光客」だけでなく、「観光関係者」の視点も重視します。

重要目標達成指標	指標設定理由	目標値
指標1 観光客の満足度	「もっと知りたい、また行きたい」という本指針における基本理念の核心であり、観光客の満足度を測る指標	観光客の満足度 現状：令和8年度アンケート実施 目標：令和8年度アンケート実施後に設定
指標2 観光関係者の満足度	持続可能な観光の実現と、観光関係者の参画促進を重視し、観光関係者の満足度を測る指標	観光関係者の満足度 現状：令和8年度アンケート実施 目標：令和8年度アンケート実施後に設定
指標3 年間観光来訪者数	観光入込客数の拡大を通じて観光施策の効果を測る指標。目標値については、新型コロナウイルス感染症拡大前（令和元（2019）年）の水準以上を目指します。	年間観光来訪者 現状：174万人（令和6年度） 目標：191万人（令和12年度） 17万人増
指標4 観光消費額	観光による経済効果を測る指標であり、消費額向上を目指す指標。目標値については、新型コロナウイルス感染症拡大前（令和元（2019）年）の水準以上を目指します。	観光消費額 現状：104億5千万円（令和6年度） 目標：114億4千万円（令和12年度） 9億9千万円増

瀬戸市観光推進指針 2026-2030
発行 令和8年3月
作成 瀬戸市経済文化部商工観光課
〒489-0813 愛知県瀬戸市蔵所町1番地の1
TEL (0561)88-2541
メール marutto@city.seto.lg.jp

令和8年3月
瀬戸市

令和8年度 瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会の取組 (瀬戸市観光推進指針 2026-2030)

基本理念 『もっと知りたい、また行きたい』誰もが心地よいまち 瀬戸
—まるっとミュージアムから次のステージへ—

■基本方針

1 瀬戸の魅力・価値を“観光につなげる” (瀬戸らしさの追求)

瀬戸の魅力である地域資源に光を当て、歴史や文化とつなげて語ることで、来訪者が体験や商品に付加価値を感じられるよう努める。

取組の考え方・方向性

- ①「本物」を体感する「物語」づくり
- ②多様な市内滞在（体験）プログラムの造成
- ③アートとものづくり文化を活かした観光推進
- ④テーマ性をもった様々な観光資源の結びつけ

■令和8年度に実施予定の取組

- 01 「本物」を体感する「物語」づくり
- 02 多様な市内滞在（体験）プログラムの造成
 - ・おもてなし観光タクシーツアーの充実
 - ・体験ガイド「せとのかたち」の活用
 - ・「旅ろっ愛知」の活用（名鉄観光サービス株式会社との連携）
- 03 アートとものづくり文化を活かした観光推進
 - ・アートイベント開催時の連携
- 04 テーマ性をもった様々な観光資源の結びつけ
 - ・テーマ旅行の強化（クラブツーリズムカルチャー旅行センターとの連携）

2 瀬戸の魅力・価値を“観光客につなげる” (きめ細かな情報発信)

瀬戸の魅力や価値について、情報をきめ細かく発信し、観光誘客の強化、満足度向上を目指す。市民も自ら発信したくなるまちを目指す。

取組の考え方・方向性

- ①観光関連情報の一元化
- ②地域の特性に合わせた受入体制の構築と連携の推進
- ③データを活用したマーケティング環境の整備
- ④商品・ターゲットに合わせたプロモーション戦略

■令和8年度に実施予定の取組

- 01 観光関係情報の一元化
 - ・体験情報のホームページへの更新
- 02 地域の特性に合わせた受入体制の構築と連携の推進
- 03 データを活用したマーケティング環境の整備
 - ・人流データの活用
- 04 商品・ターゲットに合わせたプロモーション戦略
 - ・EX旅のコンテンツ商品販売拡充（ジェイアール東海ツアーズとの連携）

3 瀬戸の魅力・価値が“人と人をつなげる” (つながりを深め、出会いが重なるまちへ)

瀬戸の魅力や情報を観光関係者と地域が共有し、多くの魅力や有益な情報を発信することで、市内の回遊や再訪の更なる促進を図る。

取組の考え方・方向性

- ①観光に携わる関係者間の情報共有と地域連携の推進
- ②再訪につながる環境づくり
- ③宿泊施設や飲食店と連携した回遊促進
- ④広域連携を軸としたインバウンド向け商品造成

■令和8年度に実施予定の取組

- 01 観光に携わる関係者間の情報共有と地域連携の推進
- 02 再訪につながる環境づくり
 - ・来訪者アンケートの実施
- 03 宿泊施設や飲食店と連携した回遊促進
 - ・名古屋内ホテルにおけるフリーペーパー「るるぶFREE」による情報発信（Co-machi観光）
 - ・おいしいせとの活用（夜も楽しめる飲食店の充実）
- 04 広域連携を軸としたインバウンド向け商品造成
 - ・ジブリパーク日帰りバスツアーの誘客強化（JTBとの連携）
 - ・タイ向けプロモーションの強化（Co-machi観光）
 - ・台湾向けプロモーションの強化（東海外客）
 - ・台湾及びタイ旅行会社招請(ファムトリップの実施)事業（東海外客）

4 瀬戸の魅力・価値を“未来につなげる” (価値を共有し次の100年へ)

持続可能な観光の仕組みを構築し、瀬戸の魅力と価値を未来へと受け継ぐ。

取組の考え方・方向性

- ①価値やサービスに見合った価格設定への見直し
- ②市制施行100周年に向け国際芸術祭のレガシーを活かした価値創造
- ③ニーズ変化に対応するための人材育成と外部知見の活用
- ④イベント企画運営に係る民間・地域の参画促進
- ⑤観光協会組織体制の検討

■令和8年度に実施予定の取組

- 01 価値やサービスに見合った価格設定の見直し
 - ・来る福招き猫まつりでのスタンプラリー等、催し料金の見直し（来る福招き猫まつり実行委員会）
- 02 市制施行100周年に向け国際芸術祭のレガシーを活かした価値創造
 - ・アートイベントとの連携
 - ・アジア大会でのPR（愛知県）
- 03 ニーズ変化に対応するための人材育成と外部知見の活用
 - ・有識者による講演会の実施（観光協会総会）
 - ・専門家の観光協会への招聘
- 04 イベント企画運営に係る民間・地域の参画促進
 - ・せともの祭における参画者の充実（青の広場等）
- 05 観光協会組織体制の検討
 - ・専門家からのヒアリング、他市の事例研究

エリア戦略

エリア01 誘客エリア（中心市街地）

【取組の考え方・方向性】

- 01 「物語、本物を味わう旅」への入口
- 02 施設の有効活用と観光コンテンツの高付加価値化

エリア02 交流・体感エリア（洞、赤津、品野、水野）

【取組の考え方・方向性】

- 01 体験プログラムの充実
 - ・体験ガイド「せとのかたち」の活用
 - ・既存プログラム（商品）の販売（プロモーション）強化
- 02 交流から生まれる相互理解と価値の再認識

エリア03 自然堪能エリア（定光寺公園、岩屋堂公園、東海自然歩道、海上の森）

【取組の考え方・方向性】

- 01 自然を介した交流・学びの場
- 02 多様で豊かな自然環境の形成と維持・保全